夢の華☆ほぼ日刊 Charart☆

第６９３号

神町中学校　夢色通信社

令和２年７月31日

終業式　１学期を振り返って

令和２年度　東根市立神町中学校　生徒会スローガン　文・武・心

心歩（しんぽ）　～思いを一つに～　三進三立

58 日間（3 年生は 59 日間）という、短くもたくさんのことを経験した 1 学期が終わろうとしています。この 1 学期は、神中生の内なる心歩を感じた 1 学期でした。特に生徒会や専門委員会の様々な活動が、充実した学校生活を支えてくれました。美化委員会の朝の清掃に始まり、保健委員会の消毒作業に終わる１日。その中に様々な生徒会活動や係活動があり、神中生１人１人がその活動に一生懸命に取り組んで来たように思います。また、安全委員会からは自転車の乗り方についての課題も提案されました。生徒会自らが課題を見つけ解決しようと行動することは、とても大切なことです。

その中で、特に心歩したと思う点が２つあります。１つは、「自ら学ぶ意欲」です。１学期のワーク提出率が、３年生でほぼ９０％、２年生で８０％でした。そもそも「“自ら学べ” プロジェクト」がでてきた背景には、宿題を出しても出さない生徒が多いということがありました。ワークの提出率が高くなったというのは、「“自ら学べ” プロジェクト」にとって、大きな心歩です。１年生も、これから頑張ってください。２つ目は、「あいさつ」です。特に１年生のあいさつがよくなりました。この原因は２つあります。１つは、生徒会役員や自治会、クラス立哨などで、毎日地道に朝のあいさつ活動を行っているから。もう１つは、部活動での２・３年生の影響が大きいからです。１年生のあいさつが良くなってきたのは、１年生が部活動に参加するようになってからです。部活動って、勝ち負けだけではないんだなと改めて感じましたし、２・３年生が積み重ねてきたものがしっかりと１年生に引き継がれていることをうれしく思いました。今では、神中生に来るすべてのお客さんが、神中生のあいさつにびっくりしています。登下校で地域の方にお会いしたときも、ぜひこのあいさつを見せてください。

最後に、今学期最も印象に残ったシーンをお話しします。それは、男子のバスケットボール部の練習試合を見ていた時のことです。残り８秒で、新田丈司くんにパスが来ました。新田君は３ポイントシュートを打ちましたが、外してしまいました。そのボールを拾った選手が再び新田君にボールを手渡しました。残り２秒、新田君は迷わずシュートを打ちました。そのシュートが入った瞬間に試合終了のブザーが鳴り、みんな新田君にかけより大喜びをしていました。聞くところによると、その試合は新田君のための試合だったそうです。普段の大会ではなかなか出ることができなかったけど、真面目に一生懸命練習に励んできた彼のために、彼に活躍してもらうためにみんなで協力して試合をしたというのです。これに似たような場面は、他の試合でもたくさん見かけました。一生懸命に頑張っている人が、きちんと認められる学校っていいなぁと思いました。

いろいろなことがなくなった１学期でしたが、普段は気づかないたくさんのことを学んだ１学期でした。